

①

川原ジャリの庭

川原ジャリをしきりめた元庭の小さい空地、
そこには「紫カタバミ」「シタ」「ヘビイゴ」
「クローバ」と雑草が2〜3本ある。

3〜4月ごろは「紫カタバミ」の花がよ
よしいが、大う南面の軒下に株がいくつも
ばき数えきれない程咲きみだれていた。その
間を縫うように「クローバ」も黄色の小さな
花をつけ、やがて実がほころんで増えるたろ
うと期待した。(園果)の角を陣取つてやる「ヘ
ビイゴ」も今年は大くさん赤い実をつけた。
「紫カタバミ」の芽先に「シタ」が2株せん
まいの株に葉をさすめで青々としていた。

私は満足した。去年のカーテシのすき間か
らこれらを眺めるのが何とも楽しんでいた。

種をまいたわけでもなし、苗を植えたわけ
でもないのに自然発生の庭は人工的なそれと
はちがうよさがある。

ちがう花同志の間隙隔、配置なかなかな
くいつてゐる。どの花がリーガーシワブを花

②

起したのでめろろ。それは一着花の芽かつた
「紫カタバミ」の株を糸がかり。花の色もピー
ンクがかつたムラサキ、黄、イチゴの赤とこ
れ又バラースがよい。小さいガラスの器に「
紫カタバミ」3〜4輪、「ハビイチゴ」も器の
ふちに2ついけたいなと思、てりましたた。

しかし膝は植物も人と同じように変化する。
6月の今水をやる二とが土要素の9でその変
化はいちぢるしい。今つゆはで雨がかなり降
るおろに思ろた日が照るときむしい暑さだ。
「紫カタバミ」は軒下のま、たぐ雨水のかか
らぬ半分はい草茶の葉。雨のあたるところは
は色あせぬみどりの葉、花はどこもない。「
ハビイチゴ」の赤い実もどこへ行つたのか葉
のまわりが赤くたつたむかし葉のみ、「ク
ロハハ」はあのとがた実がはじけまはす
たのに何もなし。「ニク」はちがうにすいすい
い。それどころか株が大きくなつた株だ。
2つあつちの1の株をど30迄かそ之たかそ
れ以上かどえきれまの程度、2い。中実た

「エエエ」 「2192」

「ベコニニア」 「カレニア」 「ベコニア」 「おーカ
 ろカ」 「それいかにしやが」 「カーカーベコニア」
 「ニヤコハサオテレ」 「シクろ×レ」 「オゴコニ
 カ」 「シニ井アレ」 の花々は羨しかつた。

その美しさは夢中になりて手入れたら「き
 しいわ!!」と満足していた。

今の庭はそんな子にさへ負けてた、カブ
 よい。何の手入れをしなくていいを言っている。

人並みに一子イフもいんがカブよきも大
 切だ。今の庭はそれを教えてくれている。

それと白の一本のすき肉から見てと暑
 くてつらそうだ。来^マ毎^ニ天気にかれん花を欠
 せてくれるだろうか

私も来春は水やりが楽なようにしたい。

2005